



千鶴一百 代人首

字燭

圖
冊

增補目錄

和歌三神之圖	古今六歌仙圖
孝弟忠信圖	百人一首讀法
三夕畫圖并歌	百人一首略解抄
女今川姫小松	七夕和歌集
婦人教訓歌	小笠原流形
婚禮座配指南	五姓名之字盡
尼之名字盡	男女相姓之事
二十六哥仙圖	衣折飭樣圖
十二支守本尊	知死期擇攝事
不成就日之事	願成就日事

和歌三神圖

左柿本人麿

中津島

石山

石山

石山

石山



百人一首より

百人一首

天智天皇
てんちてんこう

持統天皇 ちとうてん

富貴人々もいびき

此撰法原ハ人ハ人ナリ海ハ海ナリありてよむべし

摩
只是もよあそびに

陽成院 儀もあり

在魚
ハナヒノコ

久屋と云ふ万葉集に

主は夢てよびへ

松上
まのうへへ



天智天皇

秋の國乃

唐の書式

之の
 安手
 露下ぬき

待統天室

春のそと夏

夫の
 子

あま

卷之四



柿本磨

わ
ひ
さ

乃

た

ひろ

六
 色
 香

周子漢

三

ゆ
ゆ
乃
子
ろ

雷江方



文室の藤がきやまふふふふ

赤原 おまふー

持中 だんぢうとまふー

行方 ニドしにまふー

崇徳院 ちとくえんとまふー

あまのふふとまふー

ひよりうも藤んとまふー

はりてまふー

はくはひとまふー

月正 げさちにもまふー

ありあけの月まふー

あふふふふふふふ

あふふふふふふふ

あふふふふふふふ

あふふふふふふふ

あふふふふふふふ

あふふふふふふふ

あふふふふふふふ

あふふふふふふふ

あふふふふふふふ

あふふふふふふふ

あふふふふふふふ

あふふふふふふふ

徳九 ちくく

奥山 おくやま

ふみ しみ

なす 菜のたろ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ

あまふふふふふ



安陪仲摩

わのの

あり

み

み

み

わ

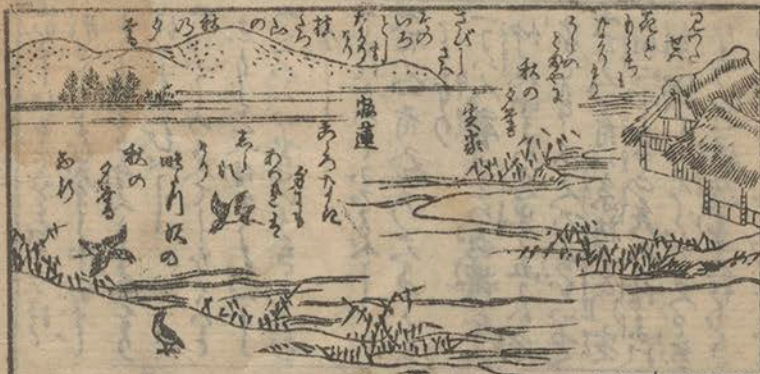
わ

わ

わ

わ





小野小町
花の色は
うらなれ

我が身よふさ
なごめしきまふ



蟬丸

さきやこのねも
りく神てん
あはれは
わさうの冥



百人一首

我後

かきさ

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

和国

い十

とね

人

わさう

わさう

わさう

わさう

わさう

わさう

わさう

わさう

わさう



わさう

わさう

わさう

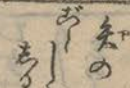
わさう

わさう



上卷

光緒八



子抗

ほくを録の

上

乃川

あつち

みちのくれあふ

わらう

卷之四

和



天
う
のあ

卷之四

いそおひ

我
子
子
者

中

五

子むの

乃

中

今之



五

いさゝか

卷之八

今



今之



万事ふはさむを
 人の中を金人の無
 多るるをわのそに
 ついでなるきこ
 一乃此をわの我に
 一の家をわのそに
 一人の事我をわのそに
 一の事我をわのそに

素性法師
 今あむと
 文屋素素
 吹うに秋の
 文屋素素
 文屋素素
 文屋素素



礼の事
 右の條はのよ
 一の事我をわのそに
 一の事我をわのそに
 一の事我をわのそに

大の千里
 月と秋の
 常家
 大の千里

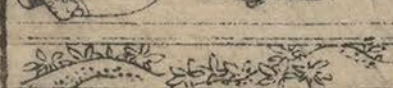




一男はうゝへ船をいれ
 船にうゝもあやう
 ひとをいれしるす
 一男はうゝへ船をいれ
 船にうゝもあやう
 ひとをいれしるす

少将うゝ人よへ
 あれでうゝすもあやう

貞信公
 小倉山
 今一むれ
 市井中さかん



一男はうゝへ船をいれ
 船にうゝもあやう
 ひとをいれしるす
 一男はうゝへ船をいれ
 船にうゝもあやう
 ひとをいれしるす

中納言
 八乃原
 いほり川
 源宗千羽



述笑邪而人看

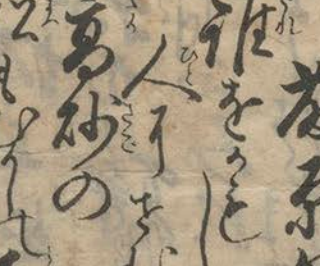
ちとあつて、かゝる病
 一はよかりなりと云
 には、ききなり
 我々も、他人の家
 姑おつて、たゞ
 ちとあつて、かゝる
 ちとあつて、かゝる



久々乃ひかり
のあき
去れぬ
むすねのちん
に友則



友系無風
人をむすね
高砂の
松もむすねなるなり



孝のをけ^けて^けた^け身一
 まり^まりて^りは^り白^くき^く
 ざり^ざ髪^はも^もと^と振^る
 の^のも^もて^てむ^むう^うゆ^ゆぎ^ぎを^を
 揃^とへ^へと^とる^る人^{ひと}す^すれ^れか^かり
 こ^ころ^ろぞ^ぞお^おふ^ふじ^じと
 び^びと^とた^たく^くは^はは^はる^る
 け^けろ^ろく^くふ^ふり^りも^もけ^けら^ら
 な^なも^もど^ど邪^{よこしま}な^なれ^れバ^バ富^{とみ}
 と^とふ^ふも^もど^どあ^あの^の人^{ひと}
 う^うと^とな^なれ^れぬ^ぬべ^べし^し也^{なり}
 て^てま^まに^に我^{われ}を^をま^まん
 と^と思^{おも}ふ^ふ也^{なり}の^のに^にま^ま
 ぎ^ぎや^やは^はな^なも^もを^を我^{われ}を^を
 な^ない^い舌^{した}に^にお^おま^まを^を
 せ^せく^く短^{たん}息^{そく}な^なも^もぶ
 づ^づん^んと^とか^かう^うさ^さと^と

紀貫之

人といふは
あつても
花とけい
素句いふ

[illegible]



多ぶ人をもつて
 事月乃 芳来
 おと 照くくくく
 人ほい 使
 来なり

志え又やの臣み朝あ康こ
志え又やの臣み朝あ康こ

ふきく
秋の路
とらふ
とらふ

告
近

人の子に
おのれを
かへしめ
よ



七夕歌はくし



衆議等

わさちぬの
をわ
あふれど
いまりてき
あ

半魚鹽

思ふれど
 物より
 物より
 物より
 人の心



雲と小雲とにまじりて
 ぬる雲のうへにすくぬる雲
 とれ川とて山雲のゆゑ未だ
 不代のやうな代數あるん
 こそをひく夜とあて七々の
 あひるは秋のさへあるんか
 天の川なうとてこゝろとて
 はまの雲のうへにすくぬる雲
 金やともはくやまを七々の
 あひるのやとてふくふく
 たふとてはくやまを七々の
 はくやまのやとてふくふく
 秋をてはくやまを七々の
 雲のやとてふくふく
 七々のやとてふくふく
 人なまにけりもあては



清原元輔
 神とあがり
 こゝろのまゝふた

中何玄教也

わい^{のち}えて^{うしろ}の

後
知
乞
1

今

あはれ
さるる



中納言朝臣

わふ事の手にて

なぐみ

人をもつて
うみしるす

[illegible]

下は...
 ゆ...
 う...
 こ...
 七...
 わ...
 秋...
 ち...
 か...
 わ...
 思...
 な...
 秋...
 秋...

謙徳公
 人々...
 身...
 なり...
勇好忠
 人...
 人...
 人...





下...
 下...
 下...
 下...
 下...
 下...
 下...
 下...

源重之
 人...
 人...
 人...
 人...
 人...
 人...
 人...
 人...




祝言者乃此

空人遺像

わねの

わくろく

儀同三司母

王

四ノ
五ノ
六ノ
七ノ
八ノ
九ノ
十ノ
十一ノ
十二ノ
十三ノ
十四ノ
十五ノ
十六ノ
十七ノ
十八ノ
十九ノ
二十ノ
二十一ノ
二十二ノ
二十三ノ
二十四ノ
二十五ノ
二十六ノ
二十七ノ
二十八ノ
二十九ノ
三十ノ
三十一ノ
三十二ノ
三十三ノ
三十四ノ
三十五ノ
三十六ノ
三十七ノ
三十八ノ
三十九ノ
四十ノ
四十一ノ
四十二ノ
四十三ノ
四十四ノ
四十五ノ
四十六ノ
四十七ノ
四十八ノ
四十九ノ
五十ノ
五十一ノ
五十二ノ
五十三ノ
五十四ノ
五十五ノ
五十六ノ
五十七ノ
五十八ノ
五十九ノ
六十ノ
六十一ノ
六十二ノ
六十三ノ
六十四ノ
六十五ノ
六十六ノ
六十七ノ
六十八ノ
六十九ノ
七十ノ
七十一ノ
七十二ノ
七十三ノ
七十四ノ
七十五ノ
七十六ノ
七十七ノ
七十八ノ
七十九ノ
八十ノ
八十一ノ
八十二ノ
八十三ノ
八十四ノ
八十五ノ
八十六ノ
八十七ノ
八十八ノ
八十九ノ
九十ノ
九十一ノ
九十二ノ
九十三ノ
九十四ノ
九十五ノ
九十六ノ
九十七ノ
九十八ノ
九十九ノ
百ノ

あふまふれ

命子孫



大綱言公經

結乃素江

之

...

中
之
分
た
る

和泉式部

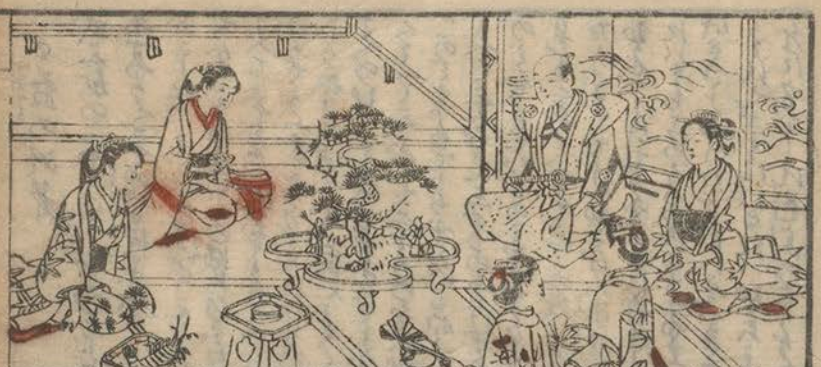
わ
ち
み

あめ
世
れ
か
ろ

おのゝこ

今

70



[illegible]

わがわが
みしやうき
はるあふ
夜半の月を
大武三郎
ありまや
おろそかの
風をあ
くすよ人とい
子神や八と



是の程も大にこれにお
 づかんにあけ三んに二
 ずにはさき三つまであり
 出さうかとさすづうて垂
 べー三んに三つさうあ
 ひとにさすかすすあふ
 するさあけさうさうあ
 ずさうあひさす人けうて
 わにかうけさうあふさ
 あふさあふさあふさ
 ひこのあひささうさうて
 まうあのかにさあふさ
 かいさあふさあふさ
 にまうさうあふさ
 ずさうあふさあふさ
 かにさあふさあふさ
 ずのさあふさあふさ

原すゝく
 福まき
 けり
 けり
 けり



古



河原乃くさく



いふ國のたてなるとふうに
くしあどけー(ゆるう)



あまのひこのあつたてゆき
くしあどけー(ゆるう)
しとくたのしとくたあへー
かたをすしとくたあへー
あまのひこのあつたてゆき
くしあどけー(ゆるう)
しとくたのしとくたあへー
かたをすしとくたあへー

いふ國のたてなるとふうに
くしあどけー(ゆるう)

いふ國のたてなるとふうに
くしあどけー(ゆるう)

いふ國のたてなるとふうに
くしあどけー(ゆるう)



いふ國のたてなるとふうに
くしあどけー(ゆるう)

いふ國のたてなるとふうに
くしあどけー(ゆるう)



[illegible]

恨
 相模
 あれを
 夢
 名
 前大僧正
 り
 あれ
 心
 志
 人

まゝにむのつゝもあつて
よりまゝにふてをまゝに
うにふてをまゝにふて
すのりあてまゝにふて
とあつてふてまゝに
くゝにふてをまゝに
やゝあつてまゝにふて
ものあつて

○
け
あ
ま
さ
し
と
ど

さるのくわくしき事
ききうすゝる久にわ
りすかる事ねきし
あるのききふくつ
ぶくしき女一代のうち
くしき一歳をいひばる
こととをいひてし
なりゆく事えふ
やふく
めきとる

名^なとておれ
 た中^{なかつ}
 春^{はる}の夜^よ乃^な
 す^すのさい
 周^{しゅう}防^{ぼう}内^{ない}侍^し
 愛^{あい}つりなる



三條院

[illegible]

在のち成すを性にあそ
 て付人^めあひい他人
 竹下^めの乗ち^めいふ名
 八束あ^めて付る名をいふ
 ああち^めに^めいふ名を
 いふのほい^めてはく
 へき^めなり

○尼ねのふぐふぐー

妙色去聲妙云妙心
日香妙日去聲妙香
演材妙森藝好林夕
妙了永壽永安妙云
慧去聲古妙全貞代
如賢業公超清里香

男おとこ女よめおお燵かまどののふふ

本姓と大姓をいふは元
来生大に孫氏なりある
よ本姓と今世西氏こそ
金村本とお執事をいふ
てかりよ大姓と大姓と
吉子はおおきお村のた
うだゆなりの家といへハ
おしそ御人

三十六奇仙圖

茶中絶言豆腐
高砂志

ちうの乃
とまのなを
おもひわかん



源佐朝長

うめりある人を
まを乃
ふせう
いのかね
ぬきもの

藤
白
基
俊

契を以て

病を
いふ

わかれ
あはれ
おの
ねり

淨慧寺道藏閣大藏經

三のうさあ

久々乃今

杉
子



ををの
積丸ちん



卷之五



まななり



卷之六





[illegible]

武子子內親王親王

王の徳よきまゝ

しやう
ふく



殷富院大補

又此の
作はの

木下
舟中

五

後市橋政前之殿

あきくや

東の
さむしり

くきひ

二陳院後改

我非也

沖の石

心之

A small woodblock illustration of a landscape. It features stylized mountains in the background and a body of water in the foreground. The style is characteristic of traditional Chinese woodblock printing.



叢



かゝるるもの
 万が一の事
 わるるもの
 必すの
 て何う
 己五原青

おきやうの
 うめ
 ちね
 藤原貞房



右源明
 其の面は
 雪月
 心を
 うそけれ
 ゐん
 成
 なる
 ぬの
 子中

[illegible]

常 よくある
 強 よくたう
 金 よくたう
 右 よくたう
 大 よくたう
 臣 よくたう

わさけとふ乃
はまでうね

卷之十
 風雲
 卷之十
 風雲

最上僧正忍圓
さうのぞい とうにやう 多

不^ふあ^あの^の
 う^うき^きせ^せの^の
 民^{たみ}の^のこ^ころ^ろ
 家^けの^のこ^ころ^ろ
 こ^ころ^ろの^のこ^ころ^ろ
 こ^ころ^ろの^のこ^ころ^ろ

入道前大政大臣
たよりぬわりの

たの雪
なりゆめい
つゝなるを



老樹の如く其色は赤
紅に五つあるを時
乃たを分けてなり青
青色は木と上段の牙二
つの夏赤と牙一のを相
対したるを牙一の秋白
を分けてをのみまゝと
牙一のて掛す余世と
をも上の段の下は段ふ
二つにて其時分の節二
つに分ちたるは中云
へ青赤黄白黒と赤黄白
黒も秋の白も青赤黄
白も赤黄白とその時
分より分ける頃ふ
かへかにあやう



知死期操操

画生

明和八歲辛卯正月穀日
天保二歲辛卯正月再板

43952

